

他者と関わり自己を見詰め、考えを深める道徳の授業を目指して

－多様な考えに触れ、思考を高め共有するためのICT機器の活用を通して－

宮城県立拓桃支援学校 伊藤 有似子

1 授業づくりに関わる課題

本校は、県内唯一の肢病併置の特別支援学校であり、児童生徒が病気の治療や訓練をしながら、日々学習に励んでいる。「病気や障害による困難の改善に取り組み、夢や希望に向かって心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる」を教育目標に掲げ、日々教育活動に力を入れている。

学校教育全体を通して育む道徳教育においては、児童生徒の発達段階に考慮しながら、道徳性を養うことを目指している。

本研究対象学級は、肢体不自由学級と病弱学級の2学級で、小学校に準ずる教育課程の4名である（10月17日現在）。1学級の在籍数は、1～3名が主で、病室のベッドサイドで学習するなど、教師と一対一で授業を行うことが多い。また、入退院を伴うため、在籍数の変動も大きい。そのことにより、児童同士の関わりの中で、対話を通して多様な考えに触れる機会が少ない状況にある。そのため、物事を多面的・多角的に捉えたり、他者との関わりの中で自分の考えを深めたりするための授業づくりが課題となっている。他者と関わることでできる環境設定や教師の発問、展開の仕方等を工夫し、児童同士が互いの考え方や感じ方を共感し学べるよう、ICT機器の活用を通じた研究を深めていきたい。

2 研究の内容と方法

(1) 自己を見詰める指導

道徳的価値を単に知識として理解するのではなく、自分事として捉えられるようにし、自己理解を深めながら、児童が自身の生き方をよりよいものにしていこうという思いを持たせていきたい。

そこで、他者、登場人物、自分との関わりを通して自己を見詰める授業を展開していく。

① 他者との関わり

心の数直線（熊本市教育センター）やワークシートに記入した自分の考えを他者と共有しながら、互いの考えを伝え合う。他者の考えをよく見聞きしながら、自分と他者との相違について気づき、考えを

深めていく。

② 登場人物との関わり

児童が役割演技を通して登場人物と関わることで、自分の行動や感じ方、考え方を再認識したり、相手の立場に立って行動する態度を身に付けたりでき、多面的・多角的な考えに広がるのではないかと考える。また、本音をなかなか話せない児童にとって、安心して考えを表現する手立てになると期待する。

③ 自分との関わり

導入時に本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持てるようにし、自己を見詰める時間を設ける。また、終末時に導入時の発問を再度行うことで、自分の考えの変化や深まりを児童自身が感じることができ、これからの生き方について自己を見詰める手立てになると考える。

(2) 考え、話し合い、学びを深めるための指導

異なる教室で学習する児童同士が、多様な考えに触れながら学びを深め合えるよう、ICT機器を活用してオンラインで授業を行う。一人一人の前にタブレット端末を置き（図1）、Web会議システムを使用しながら互いの顔を見たり、友達の意見を聞いたりして多様な考えに触れさせていく。また、Webブラウザで利用できるオンライン提示版として、Padlet（アプリケーション）を使用する。Padletは、文字に加え、画像、音声、動画、手書きしたものなどを投稿することができ、異なる教室で学ぶ児童同士が、互いの考えを視覚化して伝え合うことができる有効なツールである。自分の考えと比較しながら思いを深め、他者の共感を得たり、認められたりすることにより、学ぶ意欲が高まり、主体的に取り組むことができると考える。

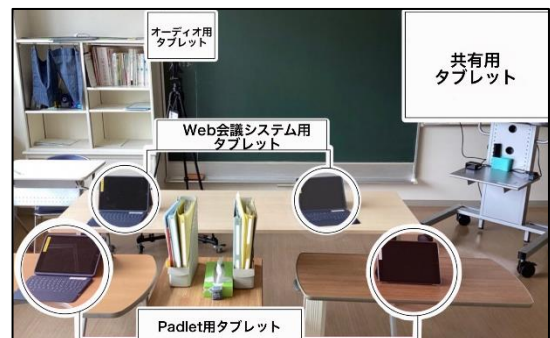


図1 肢体不自由学級のICT機器の設置図

3 I 期の取組

授業実践Ⅰ

主題名 友達を思って「B 友情、信頼」

教材名 「ともだちやもんな、ぼくら」

（東京書籍 新しい道徳2）

(1) 自己を見詰める指導

① 心の数直線による心情の表現

心の数直線（図2）を使用することで、言葉では伝えられない心の葛藤や曖昧さを表現することができた。カーソルを左右に何度も動かす様子から、迷ったり葛藤したりしながら表現する様子がうかがえた。助けに行きたいが雷じいさんの怖さがあることや、助けるために一度家へ帰り、一呼吸置いてから戻る等の発言があり、児童は物語の情景をよく考えながら、自分事として考えを深めていた。



図2 児童が表した心の数直線（ハートモード）

② Padlet による考えの共有

心の数直線やワークシートに記入した考えを共有するために Padlet を使用した。自分の考えに自信が持てない児童は、友達の手書きの内容を見て、自分の考えに近いものはないか参考にしようとする姿が見られた。自分の書いたものを他者と共有することで、比較したり違いを見付けたりでき、Padlet が学びを深めるツールになったと考える。一方で、自分の考えがまとまらず、共有するまでに時間を要する児童もあり、「できなかった」という思いを残してしまったため、個別の指示や支援の方法に課題が見られた。

(2) 考え、話し合い、学びを深めるための指導

① Web 会議システムによるオンライン学習

普段関わることの難しい友達と、互いの顔や表情を見ながら一緒に学ぶことは、児童にとってよい学びになったと考える。他者の意見を聞いて、「分かる、分かる」、「確かに」等と自分の意見と似た考えに対して同調する様子や、他者の考えから、「こうすれば、よいかもしれない」等、他者の意見に加えて、更に考えを深めていた。また、他者の表情を確認し、意見を聞きながらうなずく等、相手を尊重しながら授業に取り組む姿も見られた。

② ハンドサインの活用

児童が自分の考えを他者に伝える際に、音声だけではなく視覚的に訴えることができるよう、5種のハンドサイン（同意見、付け足し、異なる意見、質問、共感）（図3）を使用した。

オンライン学習は、児童が受動的になりやすいが、ハンドサインを用いることで、友達の意見を聞き、自分の考えていることをすぐに伝えようとしていた。視覚的に他者の考えを確認できるため聞き逃しが減り、友達のハンドサインを見て質問するなど関心を高めて授業に臨むことができた。

発言をすることに消極的な児童は、「共感」や「同意見」のハンドサインを示しながら、少しずつ自分の考えに自信を持って発言することができるようになった。

授業者の立場からも、児童の反応を細かく確認し、称賛やファシリテートしながら授業を行うことができるため、児童が安心して考えを示すことができる環境づくりにつながったと考える。



図3 5種のハンドサイン

4 II 期の取組

授業実践Ⅰでは、道徳的価値を自分事として捉えさせるための取組や発問の工夫が十分に行えなかったことが課題となったため、それを踏まえ、登場人物の心情理解の部分において役扮演技に取り組み、登場人物の気持ちを实感し、自分の行動や感じ方・考え方の広がりや深まりを感じられるように実践を行った。

当日出席することが難しい児童においては、事前に教師との Web 会議システムによるオンライン学習を行い、その様子を録画し友達の意見として紹介することで、考えを共有することができた。場が離れていても、共に学びを深められるよう実践を行った。

授業実践Ⅱ

主題名 助け合う友達「B 友情、信頼」

教材名 「森のともだち」

（東京書籍 新しい道徳2）

(1) 自己を見詰める指導

① ワークシートの活用

導入時にワークシートを活用し、仲良しの友達や学級、異年齢、意地悪な友達が転んで泣いている状況を想定し、自分の友達への関わりや思いを想起させることで、友達への思いを持たせることができた。この取組によって、自分自身の友達との関わりを土台にしながら思考を広げることができ、登場人物の心情を考える際の、自分との考えの相違から心の葛藤につながったと思われる。

さらに、終末時に再度ワークシートを振り返ることで、気持ちの変容を感じながらこれからの自己の生き方について深める時間になったと感じる。

② 心の数直線について

「60%は助けないけど、40%は助ける」や「乱暴な人なら助けたくない。だけど、ほんの少しだけ助けた方がいいかな」（図4）など、言葉に出しながら葛藤し、自己を見詰める手立てとなった。心の迷いや曖昧な気持ちを視覚的に表現することができるため、心の葛藤をくみ取りながら発問し、児童の気持ちを探ることのできるツールとなった。

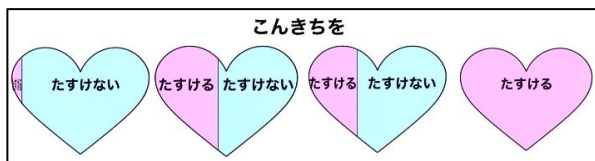


図4 児童が表した心の数直線（ハートモード）

③ 登場人物の気持ちを考える活動

乱暴な振る舞いをしていたこんきちの気持ちを考える活動では、他者との話し合いの中で、「楽しんでいる」と感じ取っていたが、それに加えて「怖がっているから面白い」、「どうすれば仲良くなれるかな」といった多面的な考えを見せた（図5）。



図5 児童のワークシート

こんきちが泣きながら謝ったときの心情を捉えるための書く活動（図6）では、情けなさや反省、後悔の他に感謝の気持ちを表現し、涙した理由の一つではないことを感じ取ることができた。

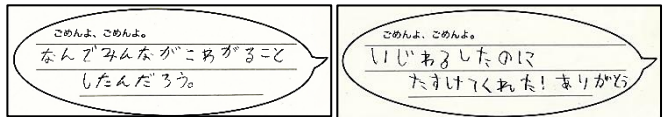


図6 児童のワークシート（後悔、感謝）

また、後述する役割演技についても、客観的に物事を捉えながら、自分事として考えることのできる手立てになったのではないかと考える。

(2) 考え、話し合い、学びを深めるための指導

① Padlet による考えの共有

Padlet の活用は、他者の考えを視覚的に捉えやすく、投稿したものが一度に確認できることから、互いの考えを比較しやすく、思考を共有するための有効な手立てになったと感じる。考えを共有するだけでなく、リアクションやコメント機能を追加することも可能なため、他者の意見に対しての気づきや疑問点を伝え合うこともできる。自分にはない考えを知ることによって、他者理解につながり、更に思考を深められるようになった（図7）。



図7 Padlet の活用

② 登場人物の立場になって行う役割演技

恥ずかしさで役割演技に難色を示す児童が、登場人物の絵札を使い、教師が動物になりきり話し掛けることで、すぐに登場人物の気持ちを考えて発言することができた。「助けようか」と提案する児童に対し、普段は、なかなか進んで自分の考えを伝えられない児童が、悩みながら「どうしよう、助ける？」と葛藤の気持ちを表すことができていた。

教師が、「助けることで、自分たちがおそわれてしまうかもしれないよ」と揺さぶりをかけると、みんなで力を合わせて助けることや、乱暴なことをしないと約束してもらおうと話し、それぞれが役になりきり動物の特徴を捉えながら、自分のできる方法で助ける作戦を考えたと。一人では難しくても、みんなで協力すればできるという気持ちが生まれ、「助ける」という選択を選んだ。

図4では、どちらかというと「助けない」を選んだ児童らが、役割演技を経て「助ける」ことを選んでいる。心の葛藤部分を他者と伝え合うことで、多面的・多角的な考えに触れることができたのだと考える。また、本時の学習が面白かったと話す児童の理由が「役割演技をしたこと」であった。この児童は、役割演技を行うことに強い戸惑いを見せていたが、動物になりきったことで、話し合いがしやすく、登場人物を介することで、自分の思いを素直に伝えることができたのだと考える。役割演技を通して自分事として捉えることができ、考えが大きく広がったことが分かる。

5 まとめ

(1) 研究の成果

① 授業実践を通して

「他者と関わり自己を見詰め、考えを深める道徳の授業」の実践を通して、他者との関わりを多く持てるよう学習を重ねてきた。

オンライン学習や動画を視聴して意見を聞く際には、画面をよく見て自分の意見と照らし合わせ、うなずいて同調したり、付け足したりと考えを広げる姿が多く見られた。自分の意見をなかなかまとめられない児童は、友達の見解を聞くことで、自己を見詰めながら、考えを表現できるようになってきた。これは、心の数直線や Padlet などの ICT 機器を使用したことにより、他者の投稿を確認することができたため、安心感を持って取り組めた結果だと考える。そして、道徳科の学習ですべての考えを受け入れ、認める教師の言葉掛けが、安心して自分の考えを伝えられることにつながり、児童の発言が増えたと考えられる。それぞれの考えを大切にすることで、発問に対して自分の思いを素直に伝えることが増えた。

授業実践Ⅱの振り返り(図8)では、友達を助けることについての考えを深めた。森の動物たちの勇気ある行動や優しさに触れて、友達と協力することで、自分自身も進んで助けようという気持ちを高めることができたり、友達と仲良く助け合うことの大切さに気づき、優しい気持ちで友達と関わろうという気持ちを深めたりすることができた。

また、物語の登場人物の立場になって他者と話し合うことで、考えが深まったり広げたりすることができ、児童が自分の生き方に照らし合わせ、道徳的価値を深めることにつながった。

③今日の学習で心にのこったことや思ったことを書きましょう。

みんなが11があるされてたのにみんな
たすけてくれたのは友達だからあとみんな
やさしいとおもったしじぶんもてたすけ
した11とおもった。

なかよくたすけあいながいらすごいわたし。

図8 授業実践Ⅱの振り返り

(2) 今後の課題

① 一人一人の実態把握

自己を見詰め、考えを深めるためには、教師が一人一人の実態把握を適切に行うことが重要である。そのために、教育活動全体で行う道徳教育との関連を図り、児童の成長と変容を見取り、児童の良さや可能性を更に引き出せるような個別の支援を行っていく。

② 本時の主題やねらいに迫る手立ての工夫

教師が、本時の主題やねらいに迫るために、児童にどのような視点で物事を捉えさせ、思考を広げ深めさせたいかを思い描くことが必要である。そのために教材教具の工夫や発問や揺さぶりの精選を行い、自分事として道徳的価値を捉えられるようにする。

③ 他校との連携

本校は、原籍校や同障害種の特別支援学校との関わりがあり、他校とのつながりを広げることが可能な環境にある。本研究で取り組んだ ICT 機器を活用し、本校の児童間だけでなく、より広く交流や関わりを持つことで、多様な考えに触れ、学びを深め、広げていく。

(3) 今後の展望

今回の研究を通して、友達と関わることに喜びを見せた児童の姿を大切に、他者との関わりが、自分の生き方をより豊かにさせることに気付かせながら、本校の道徳教育の充実をより一層深めていく。

他者を思いやり、尊重する豊かな心を育て、児童が友達と仲良く助け合いながら日々生活を送ることができるよう、今後も授業実践を重ねていき、児童の豊かな心の育成へつなげていきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 鹿児島県教育委員会：考え、議論する道徳科の学習指導における効果的な ICT 活用 2022
- 2) 仙台市教育委員会：杜の都の道徳教育 2017

【図・表等の許諾について】

図2及び図4から図8は、授業実践の中で児童が記入したワークシート等の一部である。氏名を明記せずに掲載することとし、保護者及び所属長から使用許諾を得た。心の数直線においては、熊本市教育センターより掲載の許可を得た。また、Padlet に関しても許諾を得た。